

第3回 学校デザイン部会 会議報告

日 時:令和7年5月23日(金)

午後4時～5時30分

場 所:川岸小学校2階 ふれあい教室

○次 第

- 1 開会
- 2 自己紹介
- 3 議題
 - (1) 川岸小学校及び岡谷西部中学校のグランドデザインについて
 - (2) 日課表について
 - (3) 学年の区切りのイメージ(案)について
 - (4) 今後の検討事項
- 4 閉会

○部会で確認した内容

【議題1】川岸小学校及び岡谷西部中学校のグランドデザインについて

・川岸小学校のグランドデザインは、0歳(こども園)から9年生までの学びの連続性をイメージしており、学びの楽しさ、支え合う喜び、創造を「自ら挑戦」「自ら動く」「自ら作る」の3本の柱で表現し、「たくましい子ども」を目指すという内容。地域から支えられる学校のイメージも含まれており、このグランドデザインは、令和8～9年度に向けてブラッシュアップしていく。

・岡谷西部中学校のグランドデザインは、「人権教育の充実」、「学ぶ楽しさの実感」、「自己肯定感・自己有用感」の向上の3本柱。生徒の実態として、9割以上が良い面を示しているものの、学習に関する課題がある。これらのグランドデザインは、令和9年度の新しい学校のデザインに繋がるものとして捉え、意見交換を行った。

【議題2】日課表について

・小学校と中学校が同じ時間で活動することを想定して作成された日課表(案)を説明。内容は上諏訪小・中学校の日課表や、県内他校の例を参考。小・中学校で授業時間(小学校45分、中学校50分)は崩さずに調整し、始業時間を5分ずらすことで1時間目の終了時間を揃え、休み時間(業間)を10分間確保する。

清掃時間を昼食後に設ける案も示し、下校時間を早めに設定することで、放課後の教員時間を確保する。水曜日は5時間授業とし、総合的な学習の時間や小中学校の交流時間として1時間10分を確保する案も出された。これらの案はまだ決定したものではなく、子どもたちが動きやすく、先生方が働きやすいように変更・検討していく。

【議題3】学年の区切りのイメージ(案)について

認定こども園、前期課程、後期課程という枠組みは変えずに、それぞれの段階での学びのステージイメージ(根を伸ばす、芽を育む、根・葉・枝・実を育てる、花を咲かせる)と、小さい子が中学生に憧れ、中学生が小さい子を温かく見守るといった、縦の繋がりが生まれる学園となるイメージが提示された。学級担任制から教科担任制への移行段階(5・6年生から開始)や、主な行事(運動会、音楽会、文化祭、合唱)への参加範囲案が提示された。

【議題4】今後の検討事項について

開校までに考えなければならない事項をまとめたロードマップ案を提示。色付けされた項目は優先度が高いもの。グランドデザイン(特に子ども観の共有)はもう少し早い段階で固める必要があり、日課表は2学期から運用するか、変更しないかを早期に決定する必要がある。

○部会で出された意見

【議題1】川岸小学校及び岡谷西部中学校のグランドデザインについて

▶子ども観の共有の重要性

・岡谷市または川岸学園として、子どもをどのような存在として捉え、どのような姿を目指すのかという「子ども観」を共有することが極めて重要。多くの大人が関わる中で子どもをどのように捉えるかが教育活動に繋がるため、「子ども観」の共有が最も大切である。子どもは不完全な存在ではなく、常に新しいものを知り、伸びたがっている存在である。

異なる学校段階で目指す子ども像が異なる可能性があり、子ども観を共有することが一つの方向に向かうために必要。共有した内容は学校に持ち帰り、職員間で共有していくことが望ましい。

▶川岸の子どもたちの特性と地域性

・川岸の子どもたちは、人を傷つけたり憎んだりすることが少なく、温かい人が多い印象。つつじヶ丘学園の存在や地域性が影響している可能性がある。一方で、学力面での定着に課題も見られる。

・川岸には親から子へと続く強い人間関係(古い家・新しい家といった考え方が根強く残っており、子どもたちは小さい頃からそれを敏感に感じ取って成長するという地域特性があり、これは良い面もあるが、怖い面もある。

学校には、こうした地域特有の人間関係や固定観念を払拭し、子どもたちが地域だけでなく外へ目を広げ、将来川岸で何ができるかを考えられるような教育を期待したい。意識せずとも地域と密接に関わり、自然と触れ合うこと、子どもたちが自由に家を行き来して遊ぶ関係性など、これが川岸学園の中核となる「地域と関わる」という部分に繋がると思う。

▶多様性への対応と特別支援教育

・保護者の中には、子どもに障害があるか分からず悩んでいる人が多く(特にこども園から小学1～2年生の間)、発達遅れや他者との関わりが苦手といった懸念を持ちつつ、確定診断を受けていないケースが多い現状がある。学校に行きた

がらなかったり、友達ができなかったりといった悩みを抱える保護者がおり、川岸学園がどこまでの範囲の子どもを受け入れていけるか、特別支援学級をどのように設置するのかという方針を早期に明確にすることが、保護者が安心して子どもの進路を決定する上で重要ではないか。

・多様性を受け入れる学校づくりは全国的に重要であり、人員配置だけでなく市の取り組みとしても重要。特別支援学級の設置クラスや形態を検討する必要がある、中学校にある中間教室のような場所が小学校にもあれば良い。基本設計(案)に記されている自立支援教室の設置が広がるかどうかに関心したい。

▶教員の負担増と実現可能性

・理想を掲げることは理解できるが、現状の業務を回すだけで手一杯であり、生徒の情報を十分に共有し、新たな取り組みを実行したりすることが難しい。根本的な見直し(人員体制や業務内容)がなければ、運営側が疲弊・破綻してしまうリスクがある。

▶ランドデザインの表現等

・川岸学園のランドデザインとして、この地域ならではの特色や、学園でどんな教育を受けられるか、どんなスキルが身につくかといった魅力を発信することが、人材確保の観点からも重要。校名募集に向け、学園で大切にしたいこと(ランドデザインの内容)をある程度固め、掲げた上で募集を開始する必要がある、9月頃までには募集をかけたいという意向があった。小学校のランドデザインにある「自ら挑戦」「自ら動く」「自ら作る」という言葉に対し、中学校の「自立」「共生」といった言葉に繋がりが広がりイメージが読み取れると良い

・「自ら動く」という言葉には友達との関わりや協働といった意味合いも込めているが、言葉にできていない部分がある。

【議題2】日課表(案)について

- ・清掃後の移動時間は5分では短く、特に中学校では物理的に不可能。
- ・日課表を揃える理由は、義務教育学校へ移行することにより前期・後期の教員が相互に授業を行うことから、行き来しやすくするため。
- ・令和9年のスタートに向け、日課表を試行することについて、試しにやってみることで、想定外の課題や可能な点が見つかる可能性があるかどうか。
- ・高学年(5～6年生)への教科担任制導入により教員配置の柔軟性が増し、小中学校間で教員が授業を受け持つことが可能。これにより、特定の教員の負担軽減や、子どもたちの選択肢増加に繋がるほか、教員数についても、管理職の配置数を変更することで、授業を教える教員の数を増やすことも可能。
- ・日課表の決定時期について、2学期からの運用開始を目指すのか、あるいは令和9年スタートまで検討を続けるのかについて、運用に耐えうる日課表ができない場合は無理であり、生徒への影響も懸念される。仮設校舎での6年生の活動を考えると、日課表を変えなかった場合の影響も検討が必要。

→日課表案については、持ち帰って改めて検討し、意見があれば修正案として反映させていく。

【議題3】学年の区切りのイメージ(案)について

- ・学年の区切りは6-3制を維持する方向で当面は進め、学びのステージのイメージも、スタート段階ではそのように捉え、学校運営の中で変更があれば対応していく。

【議題4】今後の検討事項について

- ・日課表は検討だけでなく、実際に試行してみることが重要。1日や1週間だけでも試してみることで、机上の検討だけでは分からない課題や可能性が見つかる。次回の検討に向けて、ランドデザインは子ども観の共有に焦点を当て、日課表は可能であればバージョンアップした案を提示する方向で進めていく。

○次回の日程について

- ・令和7年 6月～7月頃に開催予定

令和7年度 川岸小学校グランドデザイン(川岸学園へ向けて)

学校教育目標 **たくましい子ども (自立を育み共に生きる)**

地域から力を
もらい地域を
元気に

後期課程 **調整力**
社会との関わりの中
で自己決定し夢や願
いの実現に邁進する

学ぶ楽しさ

支え合う喜び

尽くす心地よさ

心ゆくまで追究
連続した「問い」の
追究

自分事に感じる
心
社会や世界へ
目を向ける

納得のいく自分
自らの背中で伝える

花・実育て

自ら挑戦

自ら動く

自ら創る

たんけん→はっけん
→ほっとけん

放っておけない心
川岸小プライド

新たな校風の創造

前期後半
判断力
他者との関わりの中
で自己を知りよさを
伸ばす

全校研究テーマ **思い・願い・考えから生まれる**
『対話的な言語活動を通して自己表現できる子どもの育成』

葉・枝・幹育て

えがおにじいろ
タイムの充実
一部高学年専科
確かな学力

身の回りや
地域へ視野を
広げ
友と心をつなぐ

児童会目標
「川岸小のオリジナリティ」
～個性を生かす・大切にす
る～
中学校や保育園との
連携の中で

前期前半
自制力
活動の中で生活・学
習・友だち関係の土
台を築く

豊かな体験と失敗
を乗り越える中か
ら学ぶ剥がれ落ち
ることのない本物
の力をめざす

自分らしさ
あなたらしさ

誰かのために

根っこ育て

体をいっぱい
使って学ぶ
問いからの出発

私とあなたを
感じる
命の教育

心も磨く清掃

幼児期 **活動力**

遊びが学び

人との関わり
の中で学ぶ
共に 伸びる

係や役割を果たす
あいさつ・ありがとう
感謝の伝え合い

たっぷりの愛情

種育て

目指す教職員集団 ◎幼児期～児童期～生徒期の子どもたちの成長に寄り添える教職員

◎人権教育の行き届いた(安全安心を最優先)学校を目指し自己更新していく教職員

◎チャレンジを恐れず、自らを振り返りながら子どもと共に学び続ける教職員

◎ライフバランスを大切に、仲間と支え合い、チームでものごとに当たることのできる教職員

同窓会

学習支援

PTA 保護者

川岸コミュニテ
ィスクール

とちっ子ひろば

ふれあいパト
ロール

自然の玉手箱

おはなしポケット

ともそだち
ボランティア

地域の方々

保護者会

9

8

7

6

憧

れ

5

と

慈

4

し

3

み

3

の

2

中

2

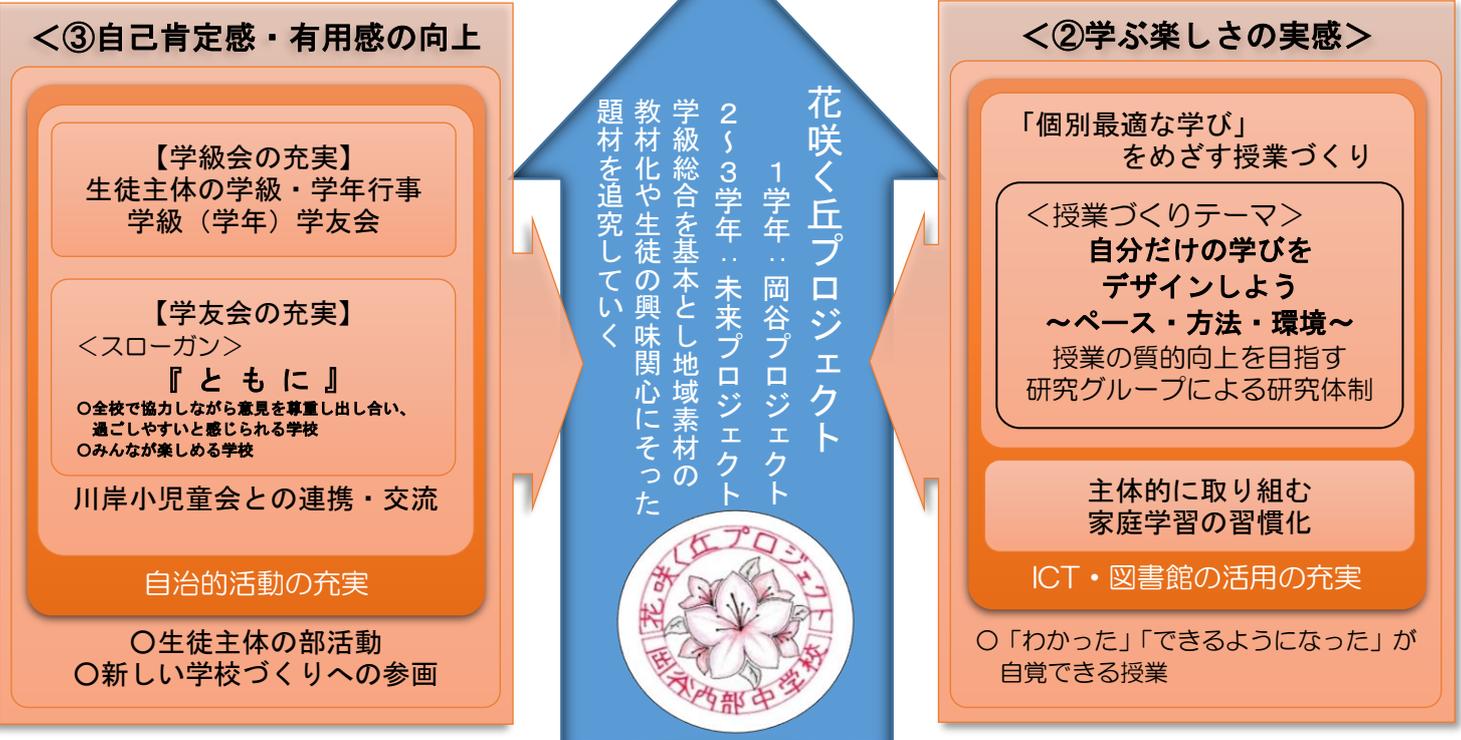
で

1

こども園

令和7年度 岡谷西部中学校グランドデザイン

岡谷子育て憲章
 ・明るく元気で、健やかな子ども
 ・命を大切にし、感謝の心と思いやりのある子
 ・自ら求め、粘り強くやり抜く子
 ・行動に責任をもち、ひとりだちのできる子
 ・力を合わせて人のた

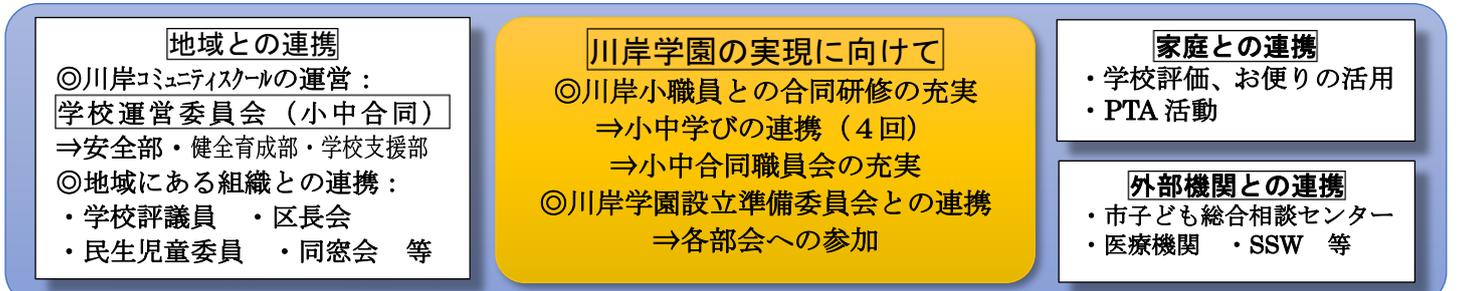
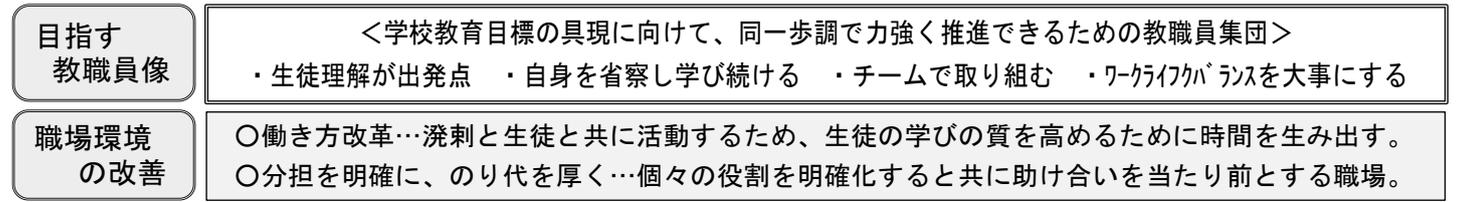


＜①人権教育の充実 ～自分を大切に、周りの人も大切に～＞

人権教育旬間プロジェクト（6～7月、11月）、いじめ根絶子ども会議、SOS教育、防災安全教育（反射タスキ）、情報モラル教育の充実、「生徒理解」に基づく生徒指導

生徒の実態からの本校のよさと課題（R6年度 本校全校生徒アンケート調査より）※数値はR5→R6

本校のよさ	・人権集会や道徳の時間等で、いじめや人権について考えることができた。 98%→99%	・仲間を大切に、思いやりのある言葉がけや行動ができた。 96%→96%	・「岡谷未来の時間」では、テーマや自分の課題の解決にむけて試行錯誤しながら取り組むことができた。 91%→92%
本校の課題	・学習問題に対して自分なりの考えをもち、意欲的に取り組むことができた。 84%→87%	・授業で「わかったこと」や「わからなかったこと」を自覚しながら取り組んだ。 88%→86%	・家庭学習の目的をもち、主体的に家庭学習に取り組むことができた。 68%→69%



【川岸小・岡谷西部中 グランドデザインの比較】

令和6年度 岡谷市立川岸小学校 グランドデザイン

学校教育目標 **たくましい子ども**

全校研究テーマ 『主体的な学び』をつなぐ 教師・子どもたち

～子どもの言葉で創る授業～

か:体をきたえ明るく元気な子
「遊びひたろう」
○友と思い切り遊びひたろう (時には先生も一緒になつて)
○日々の運動の継続
・徒歩での登下校
・「げんワク」の充実 (マラソ・ダンス・縄跳びなど)
・心と体、命の学習

き:気づき・問いを追究する子
「つながり合おうよく聴いて」
○心を傾けて聴こう
○問いを深める自分事の追究
○直音を問い深め合う学習
○創造するえがおにじいるタイム (学級文化・暮らしづくり)
○全校 (先生も) でひたる読書タイム

し:しっかりと責任を果たす子
「やり抜こう心を込めて」
○役割の自覚と支え合い
○自ら気づき動く (落ち葉掃き・雪かきなど)
○「清掃無言」心も磨く清掃
○栽培・飼育活動の喜び
○社会とつながる地域の一員

楽しく夢中になる活動を通して

わ:私もあなたも大切にする子
『川岸小プライド』・・・『考え』『判断し』『自ら動く』 (放っておけない心)
・あいさつ運動・なかよし集会・姉妹学級交流・SSST・命の学習・食育・道徳学習の充実

- PTA活動の充実
- ・自立したPTA運営
 - ・家庭生活の安定
 - 「早寝・早起き・朝ご飯」
 - ・背中中で伝える
 - ・子どもに夢を
- 川岸コミュニティスクール
- ・とちっ子ひろば
 - ・ともそだちボランテイ
 - ・ふれ合いバトル
 - ・読み聴かせボランテイ
 - ・自然の玉手箱
- 学校評議員会
- ・学校運営の見返しと提言

- お互いの人権を大切にする学校・学級**
- 「さん」をつけてお互いを尊重
 - 個性を認め合い、からかいやいじめ・暴力暴言を許さず、子どもと共に考え育む思いやりの心
 - 安心してチャレンジ、失敗できる文化づくり
 - 対話活動の充実と情報モラル学習の積み重ね
 - 「スクールオアシス (誰にも心の居場所を)」 (全職員で子どもに寄り添いサポート)
- 地域と共に歩み子どもも大人も伸びる学校**
- 信頼される教職員チーム**
- 子どもの安心・安全を何よりも最優先に (いじめ・危険の芽を摘む、報連相・研修の充実)
 - 人権感覚を互いに磨き続ける (非違行為の根絶)
 - 協働でものごとに当たる (働き方改革の推進)
 - 教職員としての専門性を磨く (研修・学び合い)
 - お便りで情報発信・情報共有 (学級便りなど)
 - 岡谷市・川岸の地域に根ざす (参加・交流)

- 川岸学園構想推進**
- 保小の交流
 - 交流活動の創造
 - 義務教育学校へ向けて
 - 9年間キレム作成
 - 高学年教科担任制施行
 - 小中交流活動の日常化
 - 小中教職員の交流
 - 小中乗り入れ授業
 - 互いの活動の応援
 - 児童生徒理解
 - つつじヶ丘学園連携
 - 市教委との連携
 - 地域・保護者との対話による合意形成
 - ◎できることから試行開始・チャレンジする

岡谷子育て憲章 「明るく元気で健やかな子ども」「命を大切に感謝の心と思いやりある子ども」「自ら求めねばり強くやり抜く子ども」「行動に責任をもちひとりだちのできる子ども」「力を合わせて人のために尽くし、郷土を愛する子ども」

**地域との連携
コミュニティ・スクール**

令和6年度 岡谷西部中学校グランドデザイン

学校長の願い 広い視野に立ってものごとを考え、自身と地域に誇りをもてる生徒が育つ学校

学校教育目標 **【自立を育み共に生きる】**

<自立> 自他を大事に、自ら考え、判断し、責任をもって行動する生徒

<共生> 多様性を認め合い、他者の考えに学び、自分の考えを広げたり、深めたりする生徒

岡谷未来の時間
花咲くプロジェクト
1学年・岡谷プロジェクト
2・3学年・未来プロジェクト

<③自己肯定感の向上>

- 【学級会の充実】 生徒主体の学級・学年行事 学級(学年)学友会
- 【学友会の充実】 <スローガン> ENCHANT(エンチャント) ~楽しさと挑戦に限界はない~
- 「自立の時間」の充実 短学活の充実
- 自治的活動の充実
- 生徒主体の部活動
- 地域における諸活動

<②学ぶ楽しさの実感>

「主体的・対話的で、深い学び」をめざす授業づくり

<授業づくりテーマ>
一人ひとりの「声」が響き合う授業をつくらう!
～つたえるつながる・ふりかえる～
授業の質的向上を目指す 研究グループによる研究体制

課題を明確にして 主体的に取り組む家庭学習
ICT・図書館の活用の充実

○「思考力・判断力・表現力等」の育成の場を大事にした単元づくりを中心に

<①人権教育の充実 ～一人ひとりの命と尊厳の尊重～>

人権教育旬間プロジェクト(6～7月、11月)、いじめ根絶子ども会議、SOS教育、防災安全教育(反射タスキ)、情報モラル教育の充実、「生徒理解」に基づく生徒指導

生徒の実態からの本校のよさと課題 (R5年度 本校全校生徒アンケート調査より)

本校のよさ	・人権集会や道徳の時間等で、いじめや人権について考えることができた。 9.8%	・仲間を大切にし、思いやりのある言葉がけや行動ができた。 9.6%	・「岡谷未来の時間」では、テーマや自分の課題の解決にむけて試行錯誤しながら取り組むことができた。 9.1%
本校の課題	・友と学び合いながら、技能を高めたり理解や自分の考えを深めたりすることができた。 8.4%	・授業で「わかったこと」や「わからなかったこと」を自覚しながら取り組んだ。 8.8%	・家庭学習の目的をもち、主体的に家庭学習に取り組むことができた。 6.8%

- 目指す教職員像** <学校教育目標の具現に向けて、同一歩調で力強く推進するための教職員集団>
- ・生徒理解が出发点・自身を省察し学び続ける
 - ・チームで取り組む
 - ・ワークアウトを大事にする
- 職場環境の改善**
- 働き方改革…深刺と生徒と共に活動するため、生徒の学びの質を高めるために時間を生み出す。
 - 分担を明確に、のり代を厚く…個々の役割を明確化すると共に助け合いを当たり前とする職場。

- 地域との連携**
- ◎川岸コミュニティスクールの運営: 学校運営委員会(小中合同) ⇒安全部・健全育成部・学校支援部
 - ◎地域にある組織との連携: 学校評議員・区長会・民生児童委員・同窓会 等
- 川岸学園の実現に向けて**
- ◎川岸小職員との合同研修の充実 ⇒小中学びの連携(4回) ⇒小中合同職員会の充実
 - ◎岡谷市設置検討委員会との連携 ⇒福井大学との連携
- 家庭との連携**
- ・学校評価、お便りの活用
 - ・PTA活動の充実
- 外部機関との連携**
- ・子ども総合相談センター
 - ・医療機関・SSW 等

岡谷子育て憲章

- ・明るく元気で、健やかな子ども
- ・命を大切に、感謝の心と思いやりのある子ども
- ・自ら求め、粘り強くやり抜く子
- ・行動に責任をもち、ひとりだちのできる子ども
- ・力を合わせて人のために尽くし、郷土を愛する子

令和9年度

日 課 表

岡谷市立川岸学園

小学校時刻	日課	月	火	水	木	金	日課	中学校時刻
	開門 7:50							
8:10~8:20	朝読書				集会	朝読書		8:10~8:25
8:25~8:35	朝の会					朝の会		8:25~8:35
8:35~	朝				朝の会		準備・移動(10分)	
8:45~ <u>9:30</u>	1校時	1	6	12	17	23	1校時	8:40~ <u>9:30</u>
準備・移動(10分)							準備・移動(10分)	
<u>9:40</u> ~10:25	2校時	2	7	13	18	24	2校時	<u>9:40</u> ~10:30
10:25~10:45	休み時間						準備・移動(10分)	
10:45~ <u>11:30</u>	3校時	3	8	14	19	25	3校時	10:40~ <u>11:30</u>
準備・移動(10分)							準備・移動(10分)	
<u>11:40</u> ~12:25	4校時	4	9	15	20	26	4校時	<u>11:40</u> ~12:30
12:25~ <u>13:20</u>	給食						給食	12:30~ <u>13:20</u>
<u>13:22</u> ~13:35	清掃			<u>13:20</u> ~ <u>14:30</u>			清掃	<u>13:22</u> ~13:35
13:45~ <u>14:30</u>	5校時	5	10	16	21	27	5校時	13:40~ <u>14:35</u>
準備・移動(10分)							準備・移動(10分)	
<u>14:40</u> ~15:25	6校時	<u>14:30</u> ~ <u>14:40</u> 帰りの会	11	<u>14:30</u> ~ <u>14:40</u> 帰りの会	22	28	6校時	<u>14:40</u> ~15:30
15:25~15:35	帰りの会	下校 14:55 バス		下校 14:55 バス			帰りの会	15:30~15:40
<u>15:40</u>	下校						下校	15:45
<u>16:01</u>	バス	15:		15:			バス	



「川岸学園」における学年段階の区切りのイメージ（案）

■ 前期課程（小）・後期課程（中）の枠組（6・3）を基本とし、認定こども園を含めて、柔軟な教育課程を編制し、園・小・中のギャップを緩和し、新たな環境に円滑に適応できるようにする。



【学びのステージ】～ 「憧れ」と「慈しみ」の中で～



【行事等】

